

● 好事例 10 ●

定着・活躍促進

外国人社員を職場の一員として受入れ、 定着と成長を支える人材育成の取組

医療・福祉

社会福祉法人 三重ベタニヤ

設立年 2005年
従業員数 192名
事業内容 高齢者介護施設の運営
所在地 三重県津市豊が丘五丁目47番6-1号
HP <https://betaniya.jp/>

社会福祉法人
+ 三重ベタニヤ



外国人材雇用を始めたきっかけ

弊法人では、以前から国籍を問わず採用活動を行っており、その中でブラジル出身の方から応募を受け、採用したことがきっかけです。その後は特定技能制度が始まったことにより、外国人材の雇用を本格化させました。

介護分野で人材不足が進む中、採用の間口を広げて多様な人材を受入れることは、事業の安定的な運営に不可欠です。外国人社員を雇用したことで職場の雰囲気以前より明るくなり、職員同士の会話や声かけも増えたと感じています。

採用のための取組

弊法人の企業理念は、キリストの教えに基づく「愛と奉仕の精神」です。その考え方に共通点のあるインドネシアの看護大学と協定を結び、卒業生の受入を行っています。また、県の実施する就業体験事業を通じて、国内在住の外国人材と出会う機会を設けたり、ハローワークを通じて広く応募を募っています。

採用にあたっては、日本語能力試験（JLPT）の資格要件を設けず、面接を通して、その方の人柄や学ぶ意欲、介護への関心の高さを特に評価しています。語学力や経験だけで判断するのではなく、現場での育成を前提に意欲や姿勢を重視した採用を行っています。

課題

現在の課題は、働きながら介護福祉士の資格取得と日本語学習を両立できる環境づくりです。介護福祉士の国家試験はすべて日本語で行われ、受験資格を得るには一定期間の実務経験も必要です。さらに試験機会が年1回に限られていることから、外国人社員にとって非常にハードルが高いのが現状です。

現在は社内で勉強会を実施していますが、今後は、さらに法人として主体的に勉強会を発展させ教材を整備したりする等、より体系的な支援制度を構築していく必要があると感じています。

外国人材 採用経路

現地の大学との協定、直接応募

- 外国人従業員数 4名
- 国 籍 インドネシア4名
- 在 留 資 格 特定技能3名、
日本人の配偶者等1名
- 業 務 内 容 高齢者介護



法人本部 事務課長

外国人材の定着・活躍のための取組状況

01 学習・資格取得に向けた支援体制

外国人社員の育成において、介護福祉士資格の取得が重要な要素と捉えています。そのため、日本語学習と介護福祉士国家試験対策について、週2回程度の勉強会を開催しています。

また、介護福祉士国家試験の受験に必須である介護福祉士実務者研修については、弊法人が費用を負担することで、外国人社員の経済的負担を減らすためのサポートを行っています。

02 住居の確保と生活面の支援

特定技能の外国人材受入れに必要な住居の手配を継続的にを行い、安心して日本での生活をスタートできるよう計画的にサポートしています。

現在、女性社員には職員宿舎、男性社員には賃貸の一軒家をシェアハウスとして提供しています。生活面では、ごみの分別等日本独自の生活ルールについてきめ細かく説明を行うことで、地域社会に早く馴染んでもらい安心して生活を送れるよう見届けています。

03 日本人社員と同等の勤務・職場環境

外国人社員には、日本人社員と全く同じ勤務体系で働いてもらっています。夜勤を含む変則勤務にも従事し、チームの一員として現場に定着してもらうことで、職場の一体感を創り出すように努めています。

また、業務以外でもクリスマス会や誕生日会等の施設内イベントに参加してもらい、利用者様や他の職員と関係を深め、施設の一員として自然に職場に溶け込めるように配慮しています。

04 コミュニケーションと定着に向けた工夫

現場での申し送りでは、日本語の細かなニュアンスが伝わりにくい場面もあります。そのため、先輩社員が日常的に声をかけ、日本語の使い方や業務内容を丁寧に確認しながらフォローしています。

また、弊法人はキリスト教の理念に基づいて運営しており、在籍する外国人社員も同じ信仰を持っています。日本の教会とのつながりが来日後の生活や精神面を支える一助となっており、日本での生活を続けていく上での安心感にもつながっていると感じます。



外国人社員の声



インドネシア出身

介護施設で活躍する外国人社員

勤続年数	3年
日本在住年数	3年
業務内容	高齢者介護
在留資格	特定技能1号

人の役に立っていると実感できる介護の仕事 日本で学び、長く働き続けることをめざして

日本は介護分野の制度が整っていて、知識や技術が発達している国だと感じ、日本で学び成長したいと考えました。大学在学中に弊法人の理事からお話を伺う機会があり、卒業後にここで働くことを決めました。現在は三交代制のシフト勤務をし、入浴介助等体力を使う業務も担当しています。来日後、日本語能力試験(JLPT)N3を取得しましたが、今でも細かな状況を日本語で伝えるのは難しいと感じることがあります。しかし、研修での学びや先輩のサポートもあり、分からないことはすぐに相談できています。利用者様向けのクリスマス会では司会を務める等、利用者様やほかの職員と交流を深めています。

また、認知症の利用者様が私の名前を覚えて呼んでくれたときはとてもうれしく、やりがいを実感しました。今後は介護福祉士の資格取得を目指して試験に挑戦し、日本で長く働きたいです。